

## 社会実験を視野に モビリティ体験会

電動キックボードとは、スケートボードに両手で握れるグリップを取り付けた形状をしており、電力で走行する。便利で手軽な交通手段である反面、公道を走行する際、免許証に加えてヘル

メットの着用が義務付けられているなどさまざまな制約がある。だが、4月に成立した改正道交法では、時速20km以下の電動キックボードを特定小型原動機付自転車と分類。車道での走行を原則とするが、最高速度6km以下に制御できれば歩道も走行できるとするなど、規制緩和

が追い風になっていく。さらに、国土交通省の有識者会議は、改正道交法の施行に伴って、16歳以上に運転免許証なしでの運転を認める電動キックボードの装備に関し、2系統のブレーキを装備することなどを内容とした保安基準を示すなど、歩道を走る環境が整いつつある。

今津市長は、昨年の市長選挙での選挙公約にあたる旭川再生計画「旭川未来ビジョン」の中に、「市役所、買物公園、駅前まで、電動キックボードや水素バスなどの社会実験」を打ち出している。6月の買物公園50周年

式典の際にも、市長自身が電動キックボードに乗って入場するパフォーマンスを披露するなどの熱の入れようだ。これを受け、市は、電動キックボードなどを無料で試乗できる「旭川まちなかモビリティ体験会」を9月3日、JR旭

旭川市は、平和通買物公園など市中心部の新しい移動手段として、電動キックボードなどの活用を検討しており、来年度にも社会実験を行う方針だ。電動キックボードは、今津寛介市長の選挙公約でもあり、市は9月3日に、市民を対象にした試乗体験会を行った。市民の反応は上々というが…。

# 新しい移動手段「電動キックボード」市は中心部導入に前のめり



スタッフから電動キックボードの使用方の説明を受ける市民

川駅前広場で行った。

この日、会場には、電動キックボードを含め、立ち乗り電動二輪車「セグウェイ」やトヨタ自動車の電動三輪車「C+w a1k T（シーウォーク・ティール）の3機種が登場。特に、シーウォーク・ティールは、最高速度10kmで歩行者と寄り添える電動の三輪車がコンセプト。安全対策を徹底しており、既に国内の空港や工場、倉庫、大規模商業施設内で活用されている。

参加者約90人はスタッフから機種の運転方法の説明を受けた後、ヘル



中高年の評判も上々な電動三輪車シーウォーク・ティール



セグウェイを試乗する菅野直行副市長

メットを着用して広場の特設コースを回った。地域振興課によると、「思ったより、簡単に乗れた」と参加者の反応は上々だったという。また、市は9月16日までの日程で中心市街地活性化のアンケートを実施。電動キックボードの是非を聞いており、年内に結果をまとめる。

### 自転車との整合性を どう取るかが課題に

市が新しい移動手段を検討する背景には、平和通買物公園（以下・買物公園）の通行量の減少が

ある。1972年に日本初の恒久的歩行者専用道路（歩行者天国）として開設された買物公園は、幅20mの道路がJR旭川駅前から8条通まで南北1kmに及ぶ。買物公園の通行量は1979年に36万人を記録したものの、その後、大型商業施設の相次ぐ撤退による買い物客の減少で通行量が年々減少。直近の調査ではピーク時の4分の1に減っている。

この調査で改めて明らかになったことが、JR旭川から離れた4条以北の通行量が相変わらず、大きく落ち込んでいる上、4条以北での移動手段についても、「乗り入れを禁止している自転車を使用する市民の割合が高い傾向にある」ことが分かったこと。

電動キックボードの導入のために社会実験することについて、ある市議は、「これら電動の乗り物が買物公園の専用レーンをはたして、電動キックボードは買物公園活性化の起爆剤となりうるのか。社会実験を含めた成り行きが注目される。」

8、9の両日に実施。12地点を調査。それによると、合計で前年比34%増9万7735人

電動キックボードの導入のために社会実験することについて、ある市議は、「これら電動の乗り物が買物公園の専用レーンをはたして、電動キックボードは買物公園活性化の起爆剤となりうるのか。社会実験を含めた成り行きが注目される。」

（田村）